

第2章 目指すべき都市像

第2章 目指すべき都市像

1. 都市づくりの理念

(1) 都市づくりの理念

本格的な人口減少・少子高齢時代を迎えた府中市が目指す将来の姿を、以下のような理念として掲げます。

魅力がぐっとつながったコンパクトシティ府中

本市は、豊かな山林や美しい河川に恵まれた自然と活力あるものづくり産業を兼ね備えた個性豊かな都市です。

今回の見直しにおいては、人口減少を前提としつつも、自然や歴史・文化などを生かして府中市の個性的な魅力を創り出すとともに、周辺の都市とも連携しながら生活機能の充実や将来性ある産業の育成・発展を図り、人々が安心して快適に住み・働ける環境整備を進めていきます。

そして、次の世代も活力にあふれたまちづくりを行っていきます。

2. 将来フレームの設定

(1) 人口フレーム

目標年次における総人口については、国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来推計人口（平成25年3月）を参照し、次のとおり設定します。また、市街化区域内人口については、平成22年時点の総人口に対する割合を引き続き維持していくこととし、次のとおり設定します。

○目標年次における人口の想定

(単位：人)

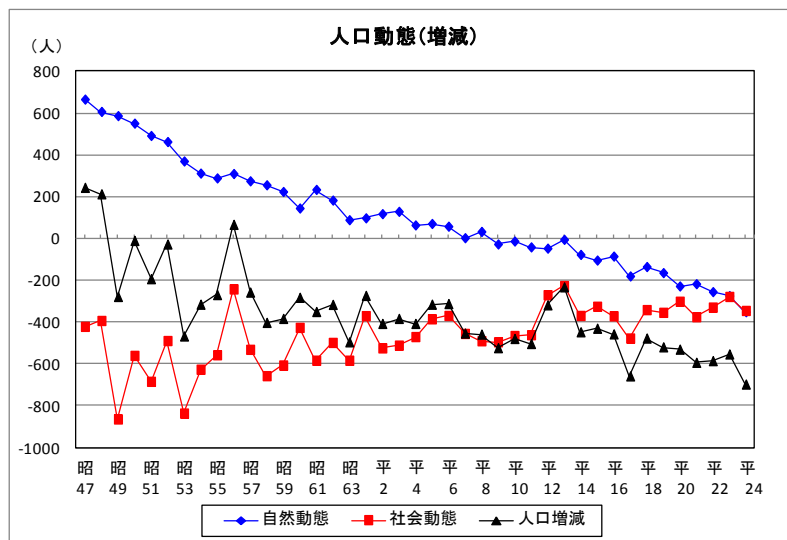
	平成22年 (国勢調査)	平成27年 (目標)	平成32年 (目標)	平成37年 (目標)
総人口	42,563	40,000	37,500	35,000
市街化区域内人口	34,332	32,200	30,200	28,200

<人口についての考え方>

ある程度の人口減少を前提としつつ、人口減少に歯止めをかけることを目指していきます。

府中市における出生数は、平成22年には20年前の約6割にまで減少しています。今後は、子どもや女性、子育て世帯も生活しやすいまちづくりを進めることで、子どもの人口の減少に歯止めをかけていくことを目指します。

近年は転出・転入ともに減少が続いています。市民アンケートでは、回答者の約1割が買い物や通勤通学、医療の利便性の低さを理由に「住み続けたいが市外へ移る可能性がある」と回答しています。今後は、交通便利性や医療福祉等の充実を図り、府中市の魅力を高めることで、転出人口の減少と共に転入人口の増加を目指します。



(平成25年度府中市統計要覧)

(2) 産業フレーム

産業フレームを、次のとおり工業出荷額と商品販売額について横ばいと設定し、第3章に示すまちづくりの整備方針や産業施策等を行うことで維持を図ります。

○目標年次における産業の想定

(単位：百万円)

	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年
工業出荷額	168,775	169,000	169,000	169,000
商品販売額	83,882	84,000	84,000	84,000

※商品販売額は平成19年商業統計より

(3) 土地利用フレーム

将来の人口及び産業フレームや第3章に示すまちづくりの整備方針に基づいた、将来の土地利用フレームは次のとおり横ばいとして設定します。市街地の広がりには現状を維持しながら、今後人口減少に伴い発生する空閑地等の充実化を進めていきます。

○市街化区域の想定

(単位：ha)

	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年
市街地規模	1,169	1,169	1,169	1,169

3. 目指すべき都市構造

(1) 集約型都市構造への転換

これまでの都市計画は市街地の拡大を前提とした枠組みによって運用されてきましたが、その結果、府中市では低密度な市街地が形成されています。今後、本格的な人口減少・少子高齢時代を迎えるにあたって、低密度に広がった市街地では、行政サービスや学校、病院や商店など生活に必要なサービスを維持していくことが難しくなっていきます。

このような課題を解決していくために、府中市では、都市づくりの土台として、人口減少・少子高齢時代に対応した集約型都市への都市構造の転換を目指します。

(2) 府中市の集約型都市構造の考え方

中心市街地と集落市街地がつながり、主要都市とも結びつく
ネットワーク型のコンパクトシティ

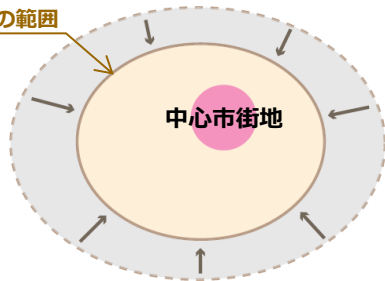
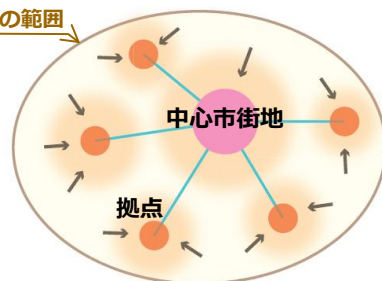
府中市では、低密度に広がった市街地を面的に縮小することは現実的ではないと捉え、市街地のこれ以上の拡大を抑制しながら、現在の居住地の広がりを持続していきます。

その上で、都市として必要な生活支援機能については、中心市街地に集約化し、市内のどこへ住んでいてもそれらを楽しむことができるような公共交通ネットワークを構築していきます。

同時に、府中市内だけでなく周辺の主要都市とも広域のネットワークで結び、より生活がしやすくなるような都市機能の連携を図っていきます。

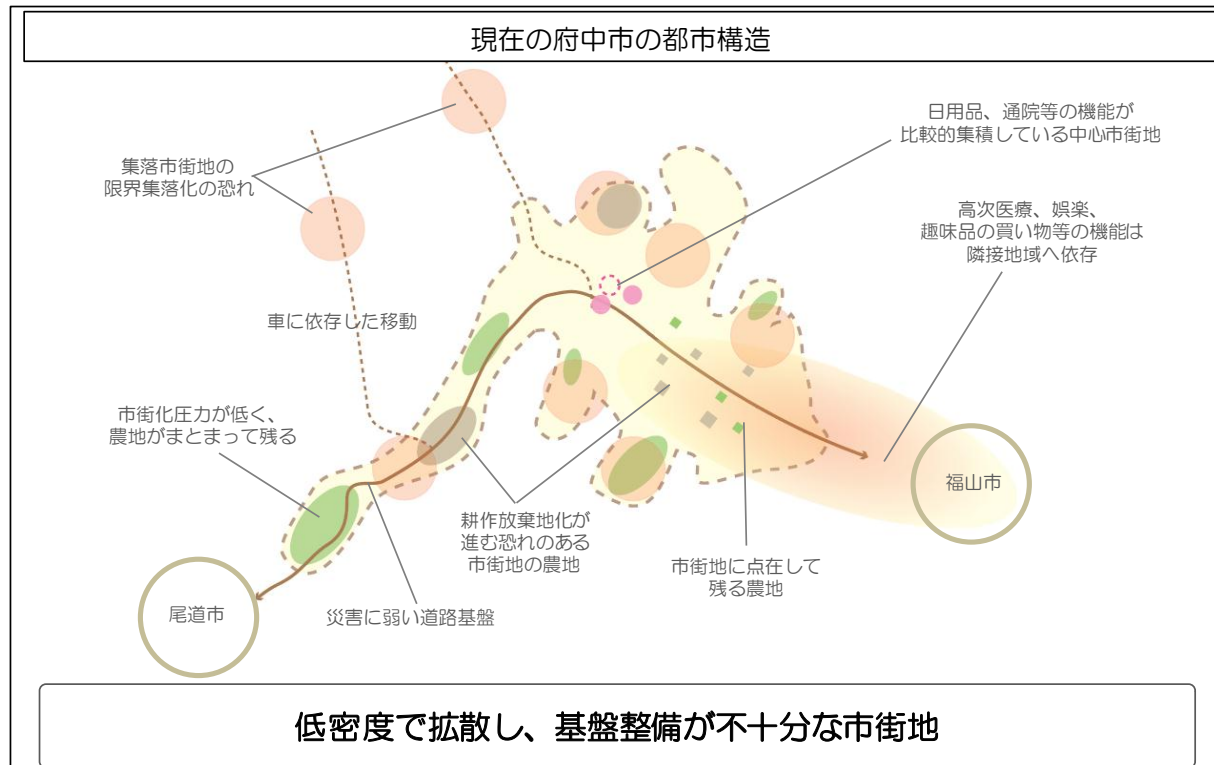
このようなネットワーク型のコンパクトシティを創造していくことで、住み続けられる都市構造の形成を目指していきます。

○集約型都市構造のイメージ

	＜市街地の面的な縮小＞	＜ネットワーク型＞
集約型都市構造パターン		
市街地の範囲	全体を中心に向かって縮小	市街地の範囲を変えず、中心及び周辺に拠点を設け拠点間のネットワークを形成
都市施設	市街地周辺部の施設を中心市街地へ移転	中心市街地及び各地域の拠点に集積
都市基盤	市街地の周辺部については基盤維持費を削減し、縮小した市街地全域を整備	拠点間をつなぎネットワークを形成する基盤について選択的に維持・整備
将来的な居住地	集落地域など市街地周辺部について中心近くへの移住を誘導	現状の居住地に住み続けられることが前提

(3) 集約型都市構造の構成

現在の府中市の都市構造から、次のようなネットワーク型のコンパクトシティへと都市構造の転換を図ります。



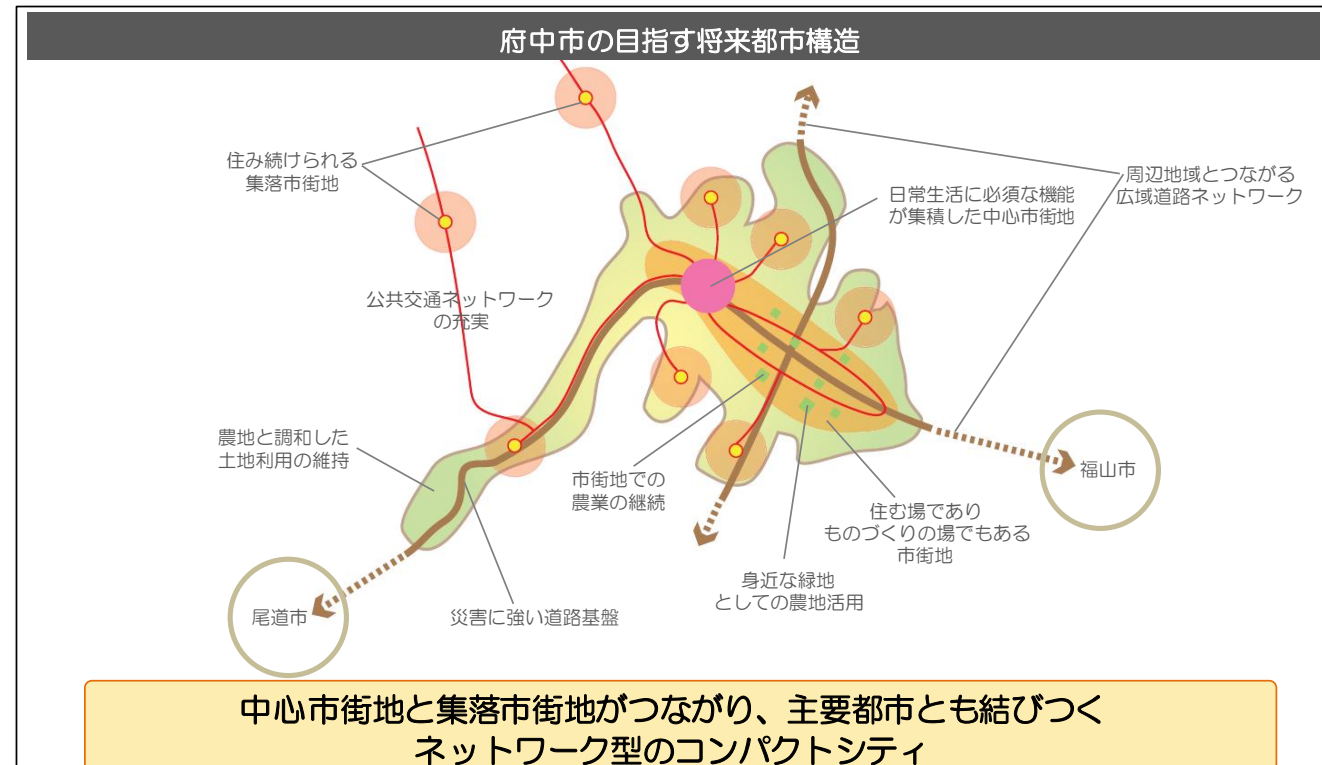
低密度で拡散し、基盤整備が不十分な市街地

<都市基盤に関する課題>

- 東西・南北方向の広域ネットワークが不足する市街地
 - 人の移動や災害時の輸送経路等に必要道路の広域ネットワークが不十分となっている
- 自動車依存が進行し、住み続けられなくなりつつある集落市街地
 - 市街地周辺の集落では人口の急激な減少は起きていないものの、高齢化が進行している
 - 市街地の周辺には近所の商店などがなく、車がないと生活できない

<土地利用に関する課題>

- 一部の生活支援機能を市外へ依存しつつある中心市街地
 - 日用品・通院などは市内で行えるが、移動は自家用車に依存している
 - 一部の機能は、市外へ依存している（高次医療、娯楽や趣味品の買い物など）
- 府中市を支えてきたものづくり産業の低迷
 - 工場の多くが立地している準工業地域においては、細街路が多く、広域とつながる基盤も未整備であるなど産業基盤が不足しており、ものづくり産業の継続・発展を妨げている
- 市街化区域内の都市農地の点在
 - スプロール化により拡大してきたが、近年は開発圧力が低く、市街化されるはずだった土地は農地として残り続けている
 - 市街地で農業を続けて行くのは困難になっている（後継者不足などの農業構造の変化、維持管理費の負担等が原因）



中心市街地と集落市街地がつながり、主要都市とも結びつくネットワーク型のコンパクトシティ

<集約型構造を構成する要素>

- ← 広域ネットワークを形成する道路基盤
 - 府中市とその周辺地域との間をつなぐ広域ネットワークを整える
 - 災害に強い道路基盤として整える
- 日常生活に必要な機能が維持された中心市街地
 - 現在も府中市に存在している、日常生活に必要な機能を今後も維持する
 - 市内に不足する機能は、他市と連携することで補完する
- 住み慣れた場所で生活が継続できる集落市街地
 - 市街地周辺部ではこれ以上の市街地拡大を防ぎつつ、住み続けられる場所と位置づける
 - 生活に必要な都市機能へ誰もがアクセスできるような公共交通網を構築する
- 産業基盤の整備された市街地
 - 市街地内の産業基盤を整え、住む場所としてだけでなく、産業活動の場として適した環境の市街地を形成する
- 市街化区域内の農地を、農業用地や身近な緑地として残した市街地
 - 市街地においても農業が継続できる環境を形成する
 - 市街化区域内農地については、積極的にオープンスペースと位置づける
 - 人口減少を踏まえ、農地と調和した土地利用の維持などゆとりある快適な住環境を形成する

